

平成 24 年度 2 級建築士設計製図試験の講評

「多目的スペースのあるコミュニティ施設[鉄筋コンクリート造(ラーメン構造) 2 階建]」

コスモ建築塾の製図講習会の予想と試験内容（製図講習会は、課題に対応するエスキスが勝負）

試験課題の主な内容と問題点	講習会で指摘した事項と試験の内容
多目的スペースをエントランスホールと一体にし、可動間仕切りで独立した室として 30 m ² 以上で使用。	50 m ² ~100 m ² で演習した。高さも 3 m~6 mまでを考えた。 30 m ² の多目的スペースとは、一体その機能が何なのか、まったく想像がつかない。
隣接して公園を設定し、直接利用できるようにした。	隣接して公園を設けた課題(3)、(4)、(5)、(9)、模試(1)。 公園の設定で、景観及び機能の繋がりを考えた。
備蓄倉庫	課題(8)、(9)、(10)で演習。
2ヶ所以上の階段を設ける。	課題(6) この課題は多目的室を2階に70 m ² を設けることにより、安全を考え、外階段を加え、2方向避難とした。試験問題の2階段とする根拠が分からない。
角地の課題とし、多目的スペースを道路の交差点付近に納める。	課題(8) 角地に多目的スペースを設けた。 角敷地の有効利用を考えれば、合理的考えだ。
喫茶店	課題(5)、(9)でカフェテラス、エスキス課題(1)~(3)で2階の喫茶室を考えた。
駐車場2台 車いす用+サービス車	大部分の課題は、この駐車場を演習したが、特にエスキス課題(3)では、駐車場の裏側にオープンスペース(試験：カフェテラス)を設けた。この形は、外構の納まりでは充分参考になったと思われる。

今回の試験対策としては、多目的スペースの広さと高さの設定が難しかった。本試験では、エントランスホールに間仕切りを設けず、独立させる場合は可動間仕切りにより 30 m²以上とした。全体に小ぶりの面積が多く、女子大の住居系の先生の設定と思われる。スケール感覚があまりにも小さく、こまごまとした繋がりを試験のテーマとしている。

設計の内容については、喫茶スペース、備蓄倉庫、大和室、会議室2分割、外部の公園、といった個々の空間はすべて演習したので問題はなかったが、多目的スペースについては、大きい空間と考え 50~100 m²まで演習した。とてもではないが、メインの空間が 30 m²とは思わなかった。但し、実際はエントランスホールと一体なので、60 m²程度はとれている。しかしこれをスペースとって、いったい何ができ、具体的にどのような機能なのか、さっぱり分からない。しかし細かい空間の繋がりは合理的な組合せとなっている。その他では、階段2ヶ所がかなりのサプライズだった。いずれにしても、非常に考えが小粒で、問題にスケール感覚が全く感じられない。私の 20 年の講師歴の中でも最も納得出来ない試験課題の内容だった。